

今日のトピック

アップルがNYダウ構成銘柄に

ポイント1 アップルとAT&Tを入れ換え ビザの株式分割と同時

- 米国のS&Pダウ・ジョーンズ・インディシーズ社(S&Pダウ)は6日、AT&Tに替えてアップルをNYダウの構成銘柄に加えると発表しました。3月19日の取引から指数に反映されます。NYダウの銘柄入れ替えは、2013年9月に、ゴールドマン・サックス、ビザ、ナイキの3銘柄が追加されて以来です。
- また同日から、すでに公表済みのビザの株式分割(1株を4株に分割)も反映されます。

ポイント2 「情報技術」のウエイトは低下 電気通信サービスは1銘柄に

- NYダウは株価平均指数として知られ、値がさ株のウエイトが大きくなる傾向にあります。今回の入れ替えは、「情報技術」セクターへの追加になりますが、値がさ株のビザ(情報技術)の株式分割により、アップル追加後でも「情報技術」のウエイトは低下する見込みです。なおアップルについても、以前は値がさ株として知られていましたが、昨年6月に1株あたり7株の株式分割を行ったことで、NYダウへの採用が取りざたされていました。
- 電気通信サービスは、AT&Tの除外によりペライゾン1銘柄となり、ウエイトは最小になります。

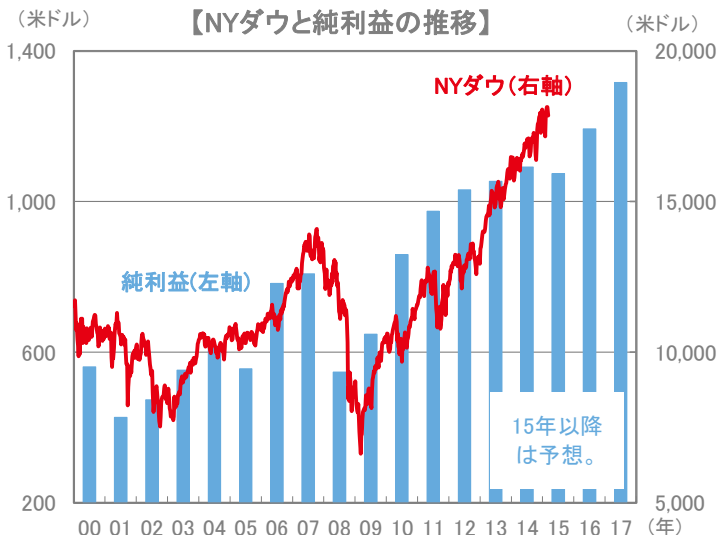
今後の展開 NYダウは利益の成長に沿って上昇の見込み

- S&Pダウ指数委員会のブリッツァー委員長は、発表文で「アップルは、最も認知された株価指数にとって明確な選択だ」と述べました。NYダウへの採用は数値基準によらず、その企業が優れた評判を有し、持続的な成長を示し、多数の投資家によって保有されている場合に限るとされています。
- 個別銘柄に関する中長期的な利益成長率の市場予想を見ると、AT&Tが年率5.3%に対してアップルは、同14.6%です。今回の入れ替えにより、NYダウ全体としても利益の成長性が向上することになります。NYダウは、利益の成長に沿って上昇することが期待されます。

(注)個別企業に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

ここも チェック!

2015年03月09日 米国の雇用統計(2015年2月) 雇用者数は予想を上回る伸びに
2015年02月27日 イエレン、「議会証言」で利上げ地ならし(米国)



(注)NYダウは2000年1月7日～2015年3月6日の週次。純利益は2000年～2017年の年次。NYダウベースの1株あたり純利益。予想はBloomberg L.P.による。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

【NYダウ 銘柄入れ替え前後の業種ウエイト(%)】

業 種	入れ替え 前	入れ替え 後
資本財・サービス	19.5	20.3
情報技術	19.1	17.1
金 融	15.6	16.2
一般消費財・サービス	14.8	15.4
ヘルスケア	10.9	11.4
生活必需品	7.4	7.7
エネルギー	6.8	7.1
素 材	2.8	2.9
電気通信サービス	2.9	1.8
合 計	100.0	100.0

(注)2015年3月6日の終値を基に試算。
四捨五入の関係で、合計が100%とならない場合があります。
(出所)Bloomberg L.P.のデータを基に三井住友アセットマネジメント作成

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。